
~ 君との約束 ~

明日香

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

君との約束

【コード】

N7044M

【作者名】

明日香

【あらすじ】

あの日、四つ葉のクローバーに誓った貴方との最初で最後の約束。

(前書き)

ちゅーい

死ねたです 重要!

・駄文ですよ?

・切ない・・・かな?

・太子と妹子は一応つき合ってる感じ(笑)

おくく???

『嫌っ!』という方は今すぐエンマとフォーエバーを(*|*);

「太子……！！！！……！！どこですかぁ……！！！！……！！太子いー
…………！！！！」

まったくあのアホ伝説はまた仕事さぼってどこ行ってんだか……
！！

竹中さんの池も探したし、ブランコのある広場も探した。
あと探してないのは……

「太子っ！！！！……やっぱりここにいたかつ！！！！……」

「妹子！！」

太子がいたのはいつも二人で遊んでいるクローバー畑。
そこで四葉を探していたらしい。

「また仕事さぼって・・・!! 覚悟はできてますね？」

「ヒイイイ!!……!! 悪かった!!……!! 悪かったから殴らんといて!!……!!」

「……………一応、言い訳、聞きますけど。」

太子は腐つても摂政『聖徳太子』。

さぼって遊びに行くのも何か訳があるのかもしれない。

「いやあ〜。仕事してる途中に妹子が恋しくなっちゃってさ。普通に妹子んとこ遊びに行っても『仕事からですから』とか言って冷たくするだろっ？だからここにきて遊んでいたんだ。ここにいれば妹子は必ず迎えにきてくれるからな……………て、おまあ……………」

「聞いて損しました。」

「だからってなにも殴ることはないだろっ!!……!!」

太子がすね始めた。
こつなるとめんどくさい。

「この芋やろ〜!!!!!!もう二度と待ってやらん!!!!」

「はあ……。だいたい貴方は仮にも皇族ですよ？護衛もなしで襲われたりしたらどうするんですか。」

「……。私は、皇族に生まれたくなかった。」

「えっ？」

「皇族だからって自由に遊びに行けない。周りの人間だって皆私に取り入ろうとして媚びを売る奴らばかり。それに皇族だから……。いつか遠くない将来、妹子と離れ離れになるんだろ……。？」

「　　っ!!!!!!!!」

そう、これは越えられない身分の壁。

いつか来てしまう、別れ。

僕は力強く太子を抱きしめた。

「いも……こ……?」「大丈夫、貴方を独りには絶対にさせません。貴方と一緒にいるためなら……僕はなんだってします。貴方が遠くにいるなら、僕はどこまでも追いかけます。官位だって貴方と同じにしてみせます。」

「……………」

「だから……あんたはいつもみたいに笑っててください。」

「……ああ、ありがとな。」

太子はニコツと笑った。

「約束……ですよ?」

「ああ、約束……だ。」

二人はキスをして誓い合った。

「んじゃ、そんな頑張り屋さんな妹子にスーパーセクシー摂政様が四つ葉のクローバーをやるう!!」

「…………ふふっ、ありがとうございます。」

この人が心から愛しいと思った。

貴方を絶対に離さない。

そう心に誓った。

月日は流れ、僕は官位一位、つまり太子と同じ位まで上りつめた。

「僕、今日は太子の好きなクローバー持ってきました。」

「太子、これを覚えてますか？貴方のくれたクローバーですよ。押し花にしておいたんです。」

「僕、貴方と同じ位になったんですよ。約束、しっかり守りました。」

「なのに……」

「どうして先に逝っちゃったんですかぁ……!!」

「『妹子』って呼んでくださいよ……」

「また抱きしめてくださいよ………!!」

「また………笑ってくださいよう!!………!!」

「太子い………!!………!!太子いいいい!!………!!………!!」

僕は太子の墓の前で、壊れたように泣き続けた。

「太子のバカっ！！！！アホっ！！！！うそつきっ！！！！！！！！愛してま
すよう！！！！！！！！！！」

どんなに高い位を貰っても、貴方がいなければ意味ないんですよ？

ほんとバカですね。

太子のくせに僕を置いていくななんて百年早いんじゃないですか？

まだ少し時間はかかりますが待っていてください。

たとえ天国だろうが、地獄の底だろうが、あんたを見つけて追いかけるからな!!

覚悟して待ってるよ!!

(後書き)

・・・暗っ!!

死ねた久しぶりにかいたんでより駄文に(泣)

海の日の勢いはいったいどこへいったんだろうか・・・。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7044m/>

～君との約束～

2010年11月5日23時13分発行